

令和元年度評価 保健事業実施状況

	達成できた	おおむね達成できた	達成できなかった	未実施
総合評価	A	B	C	D

●特定健康診査及び特定保健指導

特定健康診査受診率							特定保健指導実施率				
	28年度	29年度	30年度		元年度			28年度	29年度	30年度	元年度
			全年齢	40・50歳代	全年齢	40・50歳代					
津山市	29.2%	27.8%	29.4%	17.7%	29.8% (暫定値)	17.7% (暫定値)	津山市	15.8%	16.2%	16.4%	20.7% (暫定値)
岡山県平均	28.9%	29.5%	29.3%	17.4%	—	—	岡山県平均	12.6%	13.2%	16.3%	—
全国平均	36.6%	37.2%	37.9%	23.9%	—	—	全国平均	26.3%	26.9%	28.9%	—
アウトカム 目標(成果)	◇計画に定める受診率等の達成 ◇40歳代、50歳代の受診率の向上				40.0%	向上	アウトカム 目標(成果)	◇計画に定める実施率の達成			40.0%

国・県データ出典：国民健康保険中央会 特定健康診査等実施状況データ

(1) 特定健康診査及び特定保健指導(アウトカム評価)

事業	実施内容	評価・見直し	
特定健康診査	受診者(暫定値):4,055名(前年比+48名) ・医療機関:2,713名(前年比-39名) ・集団:1,039名(前年比+17名) ・データ提供:303名(前年比+70名)	C	H30年度より受診率は微増したが、目標には達していない。 40・50歳代の受診率は前年度と比較して横ばいである。 R元年度から人間ドック受診費用助成制度を開始し、データ提供者数が増加した。
特定保健指導	指導対象者:455名(前年比+10名) 指導利用者:94名(前年比+10名) ・実施医療機関:17か所(内当日実施:7か所) ・保健指導の実施:面談、電話、手紙	C	男性のメタボリックシンドローム該当者割合が増加している。 指導利用者は増えているが、新型コロナウイルスの影響により評価に至っていない者がいる。 健診当日実施医療機関が昨年度より増えたが、実施者数は伸びていない。

(2) 特定健康診査及び特定保健指導(アウトプット評価)

事業 / 目標 ◆アウトプット(実施量)	実施内容 ◆アウトプット実績	評価 / 見直し	
特定健診(簡易版) ◆受診者数 140名/年	・公民館や商業施設等5か所で実施 ◆受診者数 95名(3~26名/回)	C	前年度簡易版受診者は一般の特定健診を受けた者が多く、例年より少なかった。場所によって、受診者数のバラツキがかなり見られた。勧奨対象者の選定や場所の変更などを行う必要がある。
ナイター健診 ◆受診者数 70名/年	・2回(11月、1月)実施:17:00受付 ◆受診者数 70名(内特定健診:38名)	C	ナイター健診は、日中受けにくい者を対象に実施している。特定健診受診者数は目標に達していないが、H30年度受診者数より増加した。
未受診者対策 ◆受診対象者勧奨率 100% ◆新規受診対象者勧奨率 100%	・院庄地区へ電話:93件 実績:本人31名、家族19名 ・西苦田地区へ訪問:444件 実績:本人97名、家族67名 ・未受診勧奨ハガキ:市内全域対象 11月、1月に1万通送付、支所地域246通送付 ◆勧奨率(ハガキ勧奨のみ) 91.2% ・新規加入者への受診勧奨 ◆勧奨率 100%	B	院庄地区(勧奨2年目)へ電話勧奨を行い、受診率は2.2%下がったが2年継続受診者数が10人向上した。西苦田地区(勧奨初年度)は訪問勧奨を実施し、受診率が1.8%増加した。 また、支所地域に対しては、集団健診実施前にハガキによる勧奨と訪問を行い、全域に対しては、年齢や新規対象者、隔年受診者などターゲットごとに勧奨内容を変えてハガキを送付し、訪問や国保連支援による在宅保健師「ももの会」による電話勧奨を実施している。
データ提供 ◆提供数 210件/年	・医療機関、被保険者からの健診(検査)データ提供 ◆提供数:303件 ・医療機関:42件 ・個人:80件 ・人間ドック(助成制度):183件(5月末時点)	A	R元年度から人間ドック受診費用助成制度が創設され、今まで個人で特定健診のデータ提供をしていた者が助成制度を受けて一部減ったが、特定健診全体のデータ提供数は増加した。 健診未受診者の半数以上は生活習慣病治療者であり、医師会への協力依頼や、治療中の者への周知、働きかけを継続して行う。
人間ドック補助 ◆人間ドック補助制度の実施	・R元年度から人間ドック受診者に受診費用の一部を助成。 ◆申請者数:177件(R元年度申請分) ◆申請者に対してアンケートを実施	A	津山市第5次総合計画中期実施計画主要事業としてR元年度創設され実施。申請者アンケートでは、男性58.7%、市外で受診した者が28.0%、前年度の特定健診未受診者54.5%であり、今まで得られなかった受診者層を獲得できている。満足度は95.8%であり、今後も工夫して幅広く周知を行う。
特定保健指導 ◆利用勧奨率 100%	・封書による利用勧奨 ・電話による利用勧奨 ◆利用勧奨率 100%	A	封書による利用勧奨を行い、さらに電話勧奨を行った。電話不通者が多いが、保健指導利用について積極的に考えていない者も多く、生活習慣改善に興味をもてるような案内や電話での勧奨方法の工夫等行う。

(3)保健事業評価

事業 / 目標 ◇アウトカム(成果) ◆アウトプット(実施量)		実施内容 ◇アウトカム成果 ◆アウトプット実績	評価 / 見直し	
生活習慣病対策	糖尿病予防教室 ◇年4回実施 参加者数 20名/回 ◆基準を超える被保険者全員に利用勧奨率 100%	・自ら数値をコントロールできるように、集団指導(ヘルスアップ教室)を実施 ・保健師、管理栄養士の話、ノルディックウォークの体験 ◇年4回(10月、12月)実施 参加者数 40名(平均20名/回) ◆対象者への利用勧奨率 100%	A	10月・12月の参加者数は目標数に達し、参加者アンケートでは毎回好評を得ており、それぞれが生活改善のための目標を決められている。新型コロナウイルス感染症の拡大防止等の面から、3月4月の開催を見送った。糖代謝の指標であるHbA1cの基準を超える被保険者へ案内を送り、さらに電話勧奨を行っているが、血糖が高いという意識を持っていない者もあり、早期から意識づけができ、自ら興味をもてるような勧奨の工夫が必要。
	糖尿病性腎症重症化予防 ◇指導完了率 100% 検査値の維持・改善 ◆基準を超える被保険者全員に利用勧奨 指導実施者数 10名/年	・人工透析遅延等に向け、保健指導を実施 ・事業終了後、半年に1回フォロー ◇指導完了率 90% 検査結果の値については、若干の改善がみられる ◆対象者への利用勧奨実施 指導実施者数 18名/20名	A	R元年度の指導実施者数は18名と目標を大きく上回ったが、途中辞退した者があり、指導完了率は90%だった。H27年度からの指導実施者が累積66名となった。指導完了後、人工透析を開始した者は現時点でいない。指導終了後、半年に1回フォローを行っているが、必要性を感じない者も出てきており、R2年度に利用者アンケートを実施し、今後のフォローについて検討予定。R元年度は、職員を重症化予防指導員に養成し、対象者8名に指導を実施した。R2年度はレベルアップした内容で養成講座を受講予定。
	慢性腎臓病対策 ◇保健指導実施率 60% ◆対象者全員に保健指導利用勧奨、受診勧奨	・健診で要医療値かつ未受診者に対して、医療受診勧奨を電話や通知等で実施、腎疾患の受診結果がわかるしくみ作りについて検討 ◇保健指導実施率 31.7% (内CKD受診連絡票返信率 62.7%) ◆対象者全員に保健指導利用勧奨・受診勧奨実施	B	健診の検査結果から要医療値で内科を受診していない者へ、受診勧奨を行っている。腎機能だけでなく、慢性腎臓病(CKD)に影響する血圧や脂質代謝、糖代謝などの数値に対しても受診勧奨を行った。慢性腎臓病に関しては、受診結果がわかるしくみについて検討を行い、CKD受診連絡票を作成。対象者への受診勧奨から医療機関受診後の返信までのシステムを始動できた。今後は、県が取り組んでいる糖尿病性腎症重症化予防岡山方式との調整を図り、必要な受診に繋がるよう勧奨内容を充実させていく。

事業 / 目標 ◇アウトカム(成果) ◆アウトプット(実施量)	実施内容 ◇アウトカム成果 ◆アウトプット実績	評価 / 見直し	
重複・頻回受診指導 ◇保健指導実施率 60% ◆対象者へリーフレット等の送付 100%	・対象者の動向を見ながら、必要な者へ訪問し健康相談や保健指導を実施 重複・頻回受診 ◇保健指導実施率 81.8% 重複・多剤受診 ◇保健指導実施率 84.6% ◆対象者へリーフレット等の送付 100% 重複頻回保健指導:9名/11名 重複多剤保健指導:11名/13名	A	同一疾患で複数医療機関への重複受診や頻回受診、同一薬効の医薬品を重複して処方され、長期にわたっている者に対して、心身の状態や生活状況を把握した。 健康状態不良や不安が高い者、生育歴や家族関係が複雑など、ていねいに傾聴していく必要がある。さらに、状況に応じて必要なサービスへ繋がれるように地域包括支援センターや健康増進課などの関係課と今後も連携していく。
医療費通知 ◇医療費水準を県水準(1.114) <small>※全国の医療費指数を1とした場合の医療費指数</small> ◆医療機関を受診した全被保険者世帯へ送付 4回/年	・被保険者に自身の医療費を把握してもらうため、医療費10割記載の通知を送付 ◇県 1.114 津山市 1.168 ◆対象世帯へ4回送付 (6月、9月、12月、3月) 送付件数:44,366件	B	経年的には増減はあるが、県水準と比較するとやや高い状況で推移している。医療機関を受診した被保険者世帯へ送付している。
ジェネリック差額通知 ◇ジェネリック医薬品普及率(数量ベース) 80% ◆対象者への通知率 100%	・ジェネリック医薬品へ切り替えた場合の軽減額を送付 ◇普及率(数量ベース) 73.11%(前年比+3.95%) ◆対象者への通知率 100% (6月、10月、2月送付)	B	後発医薬品の理解と使用促進に向けて広報紙で周知を行い、保険証更新時に後発医薬品希望シールを同封している。計画の数量シェア最終目標80%としてはまだ達成していないが年々向上している。
健康ポイント ◇参加率 20% ◆健康ポイント制度の実施	・R3年度実施に向け、調査研究を行い、対象者の再検討を実施	C	市が主催又は関係する事業へ参加した者に対するインセンティブの付与について、被保険者だけでなく幅広い対象者へと再検討を行った。R3年度実施に向けては、被保険者を対象に準備を行う。